

夢塾だより

～ 名医と名教師 ～

(第15号) 平成30年9月20日



「いやーむのー、びょうけーあらん」(あんたのは病気ではない)。私が長い間悩まされ続けた手の爪。爪疥癬と診断されて処方された薬を使い続けていましたが、直りが悪いので、病院を変えてみました。その医者第一声、いきなり方言です。一瞬にして気圧が変わりました。私は驚きを隠せません。「え、え、え、、、」その医者は噂通りの名医で既に84歳。「私の手見てごらん」と二の腕を見せられました。まるで赤ん坊のような張りつつや。「薬を塗るときは、すり込まないで彼女を触るようにヤサシクよ・・・」背中の赤くなったところも、爪の状態も2～3日ですっかりよくなりました。名医はいるんです。80歳を越えても名医です。

私は医学部受験のため東京で浪人生活をしましたが、ついに合格できませんでした。深い挫折を味わいました。ですが浪人中にかすかに思っていたこと。それは、医者がダメなら教師だと。そう思わせる名物教師がいたのです。その予備校に。授業はすごかった。面白かった。数学が好きになった。私の人生を変えた。先生の立ち居振る舞い、口調とユーモアをまだ覚えています。

そして私は医者になら(なれ)ずに教師になりました。

「夢塾」には現在45人の生徒が在籍して、昨日よりは今日、今日よりは明日と、日々精進しています。入塾の動機やきっかけはそれぞれ違いますが、個性豊かで将来が楽しみな生徒ばかりです。「はい、今日は何からやる、どこがわからない?」「ここをお願いします」・・・「先生、聞いて聞いて、模試の結果やばいってば」「え、そんなに悪かったの?」「ちがう～。よすぎてやばい。22番だよ。前の模試より85名抜き、ちょー嬉しい」

14歳でプロ棋士になり、77歳で引退した加藤一二三さん。生涯で1324勝(歴代3位)1180負(歴代1位)。負け数千回目に達したときマスコミ取材を受けた。「千回負けた私を取り上げた日本の社会は健全で素晴らしい」そして「つまずいても、倒れたときに何かをつかんでいなさい」と言っています。

努力させてもらえる環境にあることに感謝して、頑張ろうね。みんな。